

LANBO LED TAIL LAMP

LEDテールランプ(VEZEL(RU1~4))

配線・取付説明書

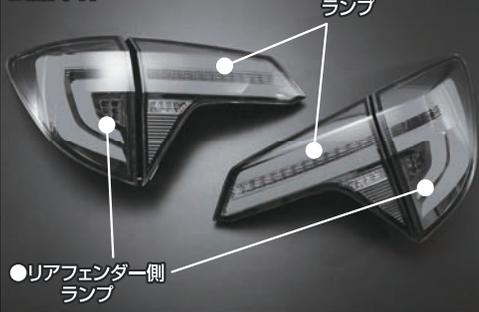
この度は【LEDテールランプ(ヴェゼル RU1~4)】をお買い上げ頂きまして、誠に有難うございました。
正しく安全にお取り付けいただく為に、事前に以下文書をよくお読みください。

●安全にご使用頂く為に(取付・ご使用の前に必ずお読みください)

- 本製品は純正部品ではございません。
- 本製品はヴェゼル(RU1~4)専用です。 該当車以外には使用しないでください。
- 取付前に点灯確認を行い、問題無く動作することを確認してください。
- 車体配線の電流値をテスターで確認し、確実に動作する箇所に接続してください。
- 配線色は入荷時期により異なる場合があります。
- 施工時はショートなどの事故が起こらないように細心の注意を払い慎重に作業してください。
- ご不明な点はお近くの専門店様にご相談ください。

●商品構成

製品本体



付属配線



●取付手順

1 純正テールランプを外す

純正テールランプの取外方法や取り外しに関するご不明な点などがございましたら各ディーラー様にお問い合わせください。

2 【付属配線】を車内に取り回す

参考画像1を参照に【付属配線】を車内に取り回す。
※ウインカーウエッジ球の互いの配線色の向きを合わせて接続してください。

3 本製品リアフェンダー側テールランプに結線する

本製品リアフェンダー側(外側部)テールランプに【付属配線】と純正配線をそれぞれ結線し車両に当てがいます。(参考画像2)
※ウインカーウエッジ球の互いの配線色の向きを合わせて接続してください。

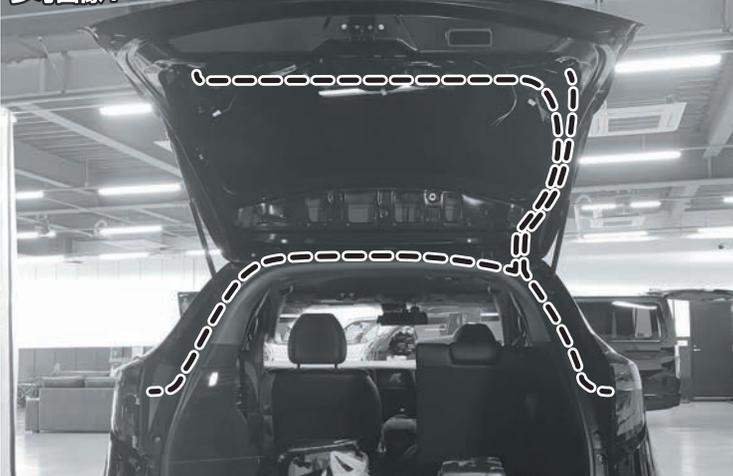
4 本製品テールゲート側テールランプに結線する

参考画像3を参照に純正テールゲート側(内側部)テールランプ側から配線を外し本製品テールゲート側テールランプに純正配線を結線し車両に当てがいます。
※バックランプ球の互いの配線色の向きを合わせて接続してください。

5 点灯チェックを行い、元の状態に戻す

正常に点灯することを確認してください。
問題がなければ取り外した逆手順で元の状態に戻してください。

参考画像1



参考画像2



参考画像3a



参考画像3b



【ランプ内部にくもりが発生した場合】

くもりが発生する原因につきまして下記内容をご理解の上ご対応を宜しくお願い致します。

- 原因1
装着してから数日~数週間の間、くもり現象が発生する場合がございます。
ランプ内の水分が一定程度蒸発した後、くもり現象が無くなります。
- 原因2
急激な温度差がある場合、くもり現象が発生する場合がございます。
外気温が低い状態でライトを点灯した場合、ランプ温度が急激に上昇しランプ内の水分がくもりを発生させます。 また、ランプ使用後、ランプ内部にある蒸れた空気と温度の低い空気が接触することで、湿気が急速に冷やされ、結露が発生する場合がございます。
※本製品装着後、約1ヶ月程度様子を見ていただきますよう、宜しくお願い致します。

●警告・注意

- お客様ご本人又は第三者が、この本製品の誤った使用や、その使用中に生じた故障、その他の不具合によって受けられた損害について弊社は一切その責任を負いかねます。
- 本製品は改造自動車に適合するものではありません。 改造自動車に装着する場合は、法令で定められた改造申請などの届け出をし、検査合格後にご使用ください。
その際、自動車が損害する事がありましても、弊社一切その責任を負いかねますので、予めご了承ください。
- 本製品に改造などを加え、指定車両以外の自動車に取り付けて発生する不具合・自動車の損傷につきまして、弊社一切その責任を負いかねます。
- 本製品は、改良の為、予告なく変更する場合があります。
- 本製品の取り付け、取り外し、使用時における事故・破損・損害などにつきまして、弊社一切の責任、保障を負いかねます。
- 本製品を第三者へ譲渡する場合は、必ず本書も一緒にお渡しください。
- 販売店様がお取り付けされた場合は、必ず本書をお客様にお渡しください。
- 本製品の取り付け、ご使用は自己責任にてお願い致します。
- 取付後の返品、交換には応じられません。 また如何なる場合も施工などの費用請求には応じられません。
- 製品に不備がない場合の事故や損害に関しまして弊社では責任を負いません。

※返品に際して生じる工賃や車両の損害などはいかなる場合も保証いたしかねます。 ※返品に際して生じる送料と返金に際して生じる手数料は、お客様負担とさせていただきます。

■ 防水処理について

- ・車の不具合が生じる恐れがありますので取り付けの際には必ず配線部分のすべてのコネクターと接続部分等に防水テープなどで防水処理を行ってください。
- ・レンズ部分と背面の境目にコーキングなどでの防水処理を行うことを推奨します。

